（別紙 12）

大学「地（知）の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	特別養護老人ホーム　こぶし荘
実習期間	平成　２９年　　８月　２８日　～　平成　２９年　　９月　　１日
学生氏名	風間貴斗
実習プログラム	初日は施設長の講話が 2 時間ほどあり、その後から現場での実習となった。午前中は主に利用者の水分補給の補助や昼食の介助、午後は利用者との会話や清掃、全体でのリハビリなどがあった。また、水曜日と木曜日の午後にはそれぞれ、デイサービスとグループホームでの実習があった。
学び・気づき（300 字程度）	昨年度末に私が実習をさせていただいたニュージーランドの施設では、介助が必要な人、ほとんど必要ない人と様々いたが、「こぶし荘」の利用者の状態はほぼ同じだった。後に調べて分かったことだが、ニュージーランドには要支援・要介護の認定制度がない。利用したい人が利用するような仕組みになっていると考えられる。また、全体でのリハビリの頻度も週 1 回とかなり低い。これは、特別養護老人ホームを「終の棲家」とする考えがあるためである。特別養護老人ホームの利用者の多くは介護度が高く(要介護 3 以上が入所の目安)、機能回復の可能性が低いと私は考える。最後に、介護現場の雰囲気が違っていた。ニュージーランドではそこまで暗い雰囲気ではなかったが、日本では重く、ずっしりとした雰囲気だった。前述した「特別養護老人ホーム＝終の棲家」の考えも影響はあると思う。
今後に向けた抱負（200 字程度）	利用者と積極的に会話するという目標は達成できなかった。高齢者を相手にしているため、利用者の中にはスムーズな会話ができない人もいた。今回気付いたのはより中身のあるコミュニケーションをするには相手に対する興味がカギとなることだ。その人のことをもっと知りたいと思えば、自然と会話が弾む。逆にそう思えなければ、言葉が出てこなくなるのである。まずは、友達のことをよく知ろうとするところから始めるのがよいかもしれない。
インターンシップをして気づいた、実習先の魅力（300 字）	今回実習を受けて分かったことは、介護の現場がマイナスなことばかりではないことである。「3K 職場」と揶揄されることが多い介護業界だが、実際に触れてみないと分からない業界でもある。やりがいを得るまでは大変だが、他人と触れ合うことが好きな方には是非 1 度は来ていただきたい業界である。 「こぶし荘」の魅力について、私は職員がフレンドリーである点を挙げる。現場の職員は優しく接してくれて、困ったときには親切かつすぐに対応してくれる。インターンシップを受ける現場としては、非常によい施設であると思いました。
写真（1～3 点）	